

また会える (4)

また会える

竹澤さおり

(前号から)

お浄土で会える？

二〇一四年一月には、阪神淡路大震災で息子さんをなくされた経験のあるお母さんと一緒に、絵本「優しいあかりにつつまれて」を自費出版しました。この絵本を作成し始めたころは、絵本の中でくらはは幸せな四人家族でいたいと思い、そのような内容にしようと思っていました。でも、浄土真宗の教えに出会えたことで、また雅人に会えるんだと思うことができたことと、娘にこの震災で起きた悲しい出来事を正しく伝える内容にしようと思ったことで、雅人

は今同じ世界にいないという悲しい現実と、でもまた会えるんだという思いを込めた絵本にしました。同じ世界でまた会える、家族四人で一緒に過ごせる、その様な意味をこめて私たち家族の話には「いっしょに」というタイトルをつけました。

初めて農さんにお会いした時に「大切な人は死を通じて、私たちに大事なことを伝えてくれる」と聞きました。でも今も私は、雅人は何を私に伝えようとしてくれているのかはつきりとはわかっていません。

例えば、雅人から繋がったたくさんのご縁に支えられて生きてこれたことを考えると、感謝の思いでいっぱいになります。一方で雅人が生きてさえくれればどんなご縁もいらなかったのにも思ってしまったら、震災後の様々な

支援等に感謝する思いとは裏腹に、私も支援されるかわいそうな側ではなく、人のためにと笑顔で支援する側の方がよかったなどと、ひねくれた思いを持ってしまったり。そのようないろいろな感情を持つてしまう情けない私のことも、阿弥陀様は救ってくださいと思つとほっとしながらも、どんな人でも救われる”というのはなにか納得がいかないような気になったりしてしまいます。



そのような思いの中、本願寺で東日本大震災の七回忌法要もあるということで、伝灯奉告法要に参拝させていただきました。そこでは、農さんと知り合った頃からお世話になつている宗務所職員の方々が、案内をしてくださいました。その時に、少し前から学ぶことができる通信教育についてうかがいました。桂さんは「わからないことなどがあれば何でも言うてくださいね」と仰ってくださいました。中央仏教学院の通信教育の入学案内を渡してくださいました。

その後、入学してみようかどうか少し悩みましたが、たった八カ月弱でお浄土に行つた雅人が私たちに伝えたいことが何なのかわかるかもしれないという気持ちと、お浄土で雅人に会えることを心から信じられるようになりたいという思いで、入門課程に入学しました。

(次号につづく)

法語の世界

《原文》

仏法者のすこしの違ひを見ては、あのうへさへかやうに候ふとおもひ、わが身をふかく嗜むべきことなり。しかるを、あのうへさへ御違ひ候ふ、ましてわれらは違ひ候はではと思ふころ、おほきなるあさましきことなり云々。

(『蓮如上人御一代記聞書』 二百二十二)

《現代語訳》

「仏法に深く帰依した人、わずかばかりの間違ひがあるのを見つけたときは、あの方でさえこのように間違ひを犯すことがあると思つて、わが身を深くつしまなければならぬ。ところがそれを、あの方でさえ間違ひがあるのだ、まして、わたしたちのようなものが間違えないはずがないと思つのは、大変嘆かわしいことである」とのことです。

高千穂組仏教夏季講座開催のお知らせ

とき 七月二十二日(日)

ところ 五ヶ瀬町桑野内 光照寺

講師 浄土真宗本願寺派布教使

熊本教区飽田組浄行寺住職

盛 忍 師

その他 金光寺から五人参加予定です。

参加希望の方は金光寺へお申込み下さい。

念珠・門徒式章、お経本が必要です。

